



空港で発生した衝突事故から『安全』を考える

2024年1月2日（木）17：47頃、着陸する日航機と離陸待機していた海保機との滑走路上で衝突事故が発生した。未だ事故発生の詳細が明らかになっていないが、いくつかの要因（可能性）に関する情報を共有する。

＊ 『ハリーアップ症候群』による海保機パイロットの勘違いの可能性。

〔時間に追われ注意力が低下したり、ストレスを抱えたりする。急ぐあまり通常の判断ができない、或いは自分の都合の良い解釈をしてしまう衝動。〕

＊ 『不適切な用語』 “ナンバー1” の解釈のズレがあった可能性。



・ 管制官：滑走路手前の停止位置まで許可。

・ 海保機パイロット：滑走路まで進入許可された。



＊ 航空管制官の海保機が滑走路に侵入した状況見落としの可能性。

海保機の動きを確認していなかった。※業務の慣れが要因か





『安全』を定着させるには・・・



*安全対策を講じるうえでは徹底的な調査が何よりも重要であり、何が引き金になったのかのみならず、そこに至るまでの全体経緯や周辺環境を正確に把握しなければ、真相にたどりつくことはできない。

*関係当事者の言いたいことが言えなくなる風潮や他の関係者のモチベーション低下が生じることは、安全性向上に寄与しない。



*より効果的な対策の検討には本当の意味での真相究明が不可欠であり、そのためにはまず当事者や関係者が安心して発言できる環境を整えることが重要である。



*安全対策は生じた穴を埋めるためにどうすべきかを中心に考えがち。しかし、穴は1か所とは限らない。木を見て森を見ずのように、起きた事象の分かりやすい部分ばかりに焦点を当てすぎず、全容を見ることが必要である。